



総合型地域スポーツクラブ

第5号

情報ステーション

—財団法人 北海道体育協会—

“熱気再び” 黒須教授の講演に147人

総合型地域スポーツクラブ啓発研修会開催
平成18年11月9日
北海道立総合体育センター

平成18年度育成推進事業である「総合型地域スポーツクラブ啓発研修会」が、生涯スポーツ社会の実現を目指し、総合型クラブの設立を全道に推進していくため、意義・役割などの普及啓発を図ることを趣旨に開催されました。

今回はドイツから5日前に帰国し、超多忙の中にあって来道され、総合型クラブ第一人者の黒須先生が講演されるとあって、全道市町村の関係者総勢147人が参加、会場は最初から熱気溢れるものがありました。

またもう一人の講師であります元プライオ・スポーツ・パークの浅井先生には「フィットネス業界を取り巻く環境の変化について」、業界の中身を詳細にお話しいただき、クラブ運営に参考となるものがありました。



〔会場一杯の参加者〕

講演Ⅰ 「総合型クラブ育成の背景と意義」

講師 福島大学人間発達文化学類

教授 黒須 充 先生

=総合型クラブの施策は順調か!=



〔講演中の黒須先生〕

黒須先生は冒頭に、読売新聞記事で自ら執筆した「プロスポーツと地域活性化」を示しながら、25年振り北海道日本ハムファイターズがパワーゲームを制覇した例を挙げ、最も大きな要因は「徹底した地域との関係強化」であり、スポーツを通じて地域の活性化、共存共栄が図られたことを、先ずはじめに訴えられました。

◆講演では①「今なぜ総合型クラブが構築されたか」②「百聞は一見に如かず」・財源確保の事例、

③「総合型クラブ施策・富山県の育成方針」など、極めてわかり易く話されました。

まちで先生は、総合型クラブの存在意義は「住民の目線に立ち、生涯を通じてスポーツを楽しめる仕組みを作らなければならない」自治体や体協、競技団体など既存組織の変革に踏み込むことも必要」「スポーツを楽しむ環境が整えば、子どもの体力向上や医療費削減にも波及していく」「クラブづくりは社会を変える試みでもある」と締め括られました。

講演Ⅱ 「民間のスポーツクラブに学ぶ」

～フィットネス業界を取り巻く環境の変化～

=最大の課題は継続である!=

委託事業における2回目の講演をお願いしました浅井先生は、従来と大きく様変わりしているフィットネス業界の内情について、支配人という経営の立場から、課題などについて話されました。

講演内容 ①フィットネス業界の現状 ②会員数増大の戦略 ③最大の課題は継続
④スタッフは重要 そのポイントについて他

講 師
元プライオ・スポーツ・パーク
支配人 浅井 重順 先生



参加者の声

「啓発研修会」を終えて、沢山の参加者から「有意義な講演であった」と感想をいただいておりますが、その中から紙面の関係上、2名の方のコメントを載せてお礼をいたします。

(1) 美唄市体育協会 奥山 裕章 会長

総合型クラブで著名な先生の講演と聞きまして是非参加してみようと思いました。これまで、スポーツと言うと、競技力向上に関わってのトレーニングや指導技術などのことが多いですが、今回、スポーツを通しての地域（まち）づくりにヒントを得ることができました。

また美唄市では、既に65歳以上が3人に1人という現状にあり、楽しみながら中・高齢者の健康づくりのため、スポーツと福祉が連携を図り、医療費の削減に踏み込んで行く時代であると思いました。

(2) あづまスポーツクラブ 徳田 恒徳 事務局長

総合型クラブの基礎基本について、大変わかり易い内容で、前向きの講演であったと思います。改めて総合型クラブとは何か、確認できました。

富山県の例では、目標に向けて着実に歩みを進める大きさがわかりました。

もう一つの講演では、フィットネス業界の実態とプロであっても「継続は力なり」ということが理解できて、参考にしたいです。

**育成指定クラブ
マネジャー研修会**

道東の地 帯広で研修の花開く

平成18年8月26～27日 帯広市(帯広百年記念館)



〔全道から56人の参加者〕

◆平成18年度の「クラブマネジャー研修会」は、昨年度の2回開催から1回となり、密度の濃い内容が問われる中で、育成指定クラブのクラブマネジャーをはじめ、全道のクラブ関係者が、これまで最多の56人が参加して、道東の地帯広市で開催されました。

研修会の運営などに当たっては、地元の「光南SHCクラブ」や「帯広の森スポーツクラブ」・十勝圏広域スポーツセンター・帯広市教育委員会の皆さんとの協力を得て実施されました。

◆また講演講師として、遠く福島県田島町「ひのきスポーツクラブ」の湯田賢史クラブマネジャーが来道、クラブ構想や運営などについて明快に話されました。実践発表では、育成指定クラブ一期生である「NPOなかしべスポーツアカデミー」の船山幸利クラブマネジャーが、ユーモアを交えながら前向きな発表をされたなど、参加者の皆さんが納得のいく有意義な研修会となりました。

(1) 「地域住民によるクラブ創設と2人のキーパーソン」

講師 「ひのきスポーツクラブ」
クラブマネジャー 湯田 賢史 先生

◆講演のポイント

- ・クラブの鍵を握るのは、人・物・金と良く言われるが、演題にあらかじめ、「ひのきスポーツクラブ」は「2人のキーパーソン」の活躍と、地域全体を巻き込んだクラブづくりをするため、他団体との合意形成にじっくり時間をかけて設立しました。
- ・その中にあって、湯田クラブマネジャー（役場職員）の存在とその熱意・企画力・確固たる信念は、ただならぬものがあります。しかも決して無理や背伸びすることなく、1歩1歩着実に、地域に根ざしたクラブづくりを進めている。キーワードは「地域の特徴を活かすこと」と結ばれました。

◆講演の概要

- ①田島町・檜山地区の概要
- ②クラブ設立の経過
- ③ひの木げん木もり森構想
- ④すくすくひのきプラン
- ⑤クラブの活動と組織
- ⑥田舎でスポーツ今後の展開 他



〔講演中の湯田先生〕

情報交換会も満開

26日夜6時から開かれた参加者の情報交換会は、光南SHCクラブ土田和夫会長の挨拶からスタート、各クラブの皆さんは、それぞれ席を変えながら、和やかに話の花を咲かせておりました。最後は帯広の森スポーツクラブ杉野睦夫代表が締めて、幕を閉じました。

(2) 現地クラブの視察研修

8月26日(帯広市立光南小学校体育館)

現地の育成指定クラブである「光南SHCクラブ」の協力により、クラブマネジャー研修会で全道各地から参加した仲間達にも、実際に活動を見てもらって、それを生かそうというものです。

「光南SHCクラブ」は、市民にも開放できる施設として、1階にプール、2階には体育館といい、活動拠点に恵まれたクラブであります。

当日は、水中運動教室、ミニテニス教室が実施され、参考にしたクラブの皆さんも「参考になった」と感想を述べられておりました。

「光南SHCクラブ」の増田久美子事務局長さんは、特色あるプログラムとして、呼吸法を生かして、大地のパワーを体内に入れる「体操操」教室が人気なのですが、今回は日程が合わず残念と話してくれました。



〔ミニテニス教室〕



(3) 実践発表

8月27日(帯広百年記念館)

「町民が主役のクラブづくりを目指して」

発表者 「NPOなかしべスポーツアカデミー」
クラブマネジャー 船山 幸利 先生

平成18年2月28日クラブ設立総会を開催。4月から仮称が取れ、正式なクラブとして第1歩を踏み出した「NPOなかしべスポーツアカデミー」の船山幸利クラブマネジャーは、先ず最初に「クラブ設立まで」という中で、住民アンケート調査の実施や不安の中でのスタートであったと話され、続いて「クラブの資金と財源の確保」「クラブの組織体制」「クラブ設立の使命」などについて、3年間中心になって活躍しての苦労話を明るい性格から前向きに語られました。

まとめとして、「共感の和を広げる」との大切さやクラブ運営は「皆んなでやるもの。組織でやるもの」と強調して、話を閉じました。

クラブ設立の使命 (ミッション)

- ・スポーツ（運動）人口のすす野を拡大する！
- ・スポーツを通じて町づくりを進める。～愛町心を！
- ・青少年の健全育成を！
- ・地域住民の健康増進を！
- 「ふるさとを愛する人を育てる、みんなが主役の元気にあふれる楽しいクラブ」

全道市町村

スポーツを通して地域の夢づくり

平成19年度推薦予定

新篠津村	函館市(海洋)
函館市(教育大)	俱知安町
富良野市	伊達市
新冠町	足屈町
別海町	札幌市(発寒)
苫小牧市	札幌市(宮の丘)
羽幌町	

以上13市町村

平成20年度推薦予定

芦別市	遠軽町
長沼町	足寄町
湧別町	豊浦町
石狩市	札幌市(南区)
中川町	浜頓別町
浜中町	小樽市
上ノ国町	

以上13市町

<育成指定クラブに向けての動向>

生涯スポーツの実現を図るために、子どもから高齢者まで誰もが年齢、興味、関心、技術技能レベルに応じて、いつでも参加できる総合型地域スポーツクラブの設立を目指す文部科学省事業（日本協議委託事業）は、3年目を終えようとしている。

◆普及・啓発説明会の開催

全道各地で開催されている事前説明会のスナップ写真です。



[10月3日 音更町]



[10月4日 芦別市]

平成21年度推薦予定

上幌別町	栗山町
当別町	美唄市
浦幌町	中富良野町
南富良野町	新得町
日高町(北東)	せたな町
音更町	吉小牧市(緑丘)
八雲町(熊石)	利尻富士町
新十津川町	厚真町
天塩町	上富良野町

以上18市町



[11月1日 富良野市]



[11月2日 羽幌町]



[11月24日 札幌市(丘の庄)]



[11月22日 当別町]



[11月13日 浦幌町]

★めざすは 設置率50%以上!

育成指定クラブ委託事業は、平成22年までの計画であり、残すところ4年であります。本道では育成指定の期間2年間は、じっくり支援を受け、確実なものに仕上げようと、各指定クラブには設立に向けて、粘り強く取り組むようにお願いしている。

富山県や兵庫県など、総合型クラブ市町村設置率が既に100%のところがあれば、本道のように20.6%と、依然として低率であります。「少なくとも各市町村に1つのモデルクラブ」をと言われる中で、当面の目標として道体協では事業終了までには、50%以上の設置率を目指しています。

未設置市町村では、総合型クラブ設立の趣旨のもと、体協、体指、教委など、リーダー性を発揮した取り組みができるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

「先輩クラブから学ぶ」

◆第2回北海道・東北ブロック クラブ育成推進協議会 本道で開催



[推進協議会の1コマ]

平成18年11月10日
ホテルライフォート札幌

情報の共有化と北海道・東北ブロックにおけるクラブ創設支援のためのネットワークの強化を図ることを目的とした、ブロック別推進協議会は、前日の「啓発研修会」に講師をされた

黒須充先生(中央企画班長)を

はじめ、西田晴之日体協生涯スポーツ推進部長、同じく黒田真理子担当者など36人参加して開催されました。

主な内容

◆事例発表「先輩クラブから学ぶ」

- 発表者・「エスピボルチ秋田雄和」佐藤 勇一 氏
- ・「NPO法人フォルダ」福士 幸子 氏

◆演習「協力者を増やすには」

◆グループワーク

- ・テーマ ①プログラムづくり
- ②活動拠点の確保
- ③設立後の財源確保

「健康づくりの運動効果」

◆育成指定クラブ連絡協議会 後期開催

平成18年11月30日

北海道立総合体育センター

後期「連絡協議会」は、全道からクラブの代表や事務局長をはじめ「Genキングしらい」の高橋事務局長さんなど38人が参加して開催されました。



[講演 武田秀勝先生]

(1) 講演「老化防止の運動と食事～健康づくりの運動効果～」

講師 札幌医科大学 教授 武田秀勝先生

講演では「人は身体活動停止するとどうなる」「健康は知識より意識」など、きめ細やかに、わかりやすく、丁寧な講演되었습니다。

(2) 研究協議「道外先進地（クラブ）を視察して」

- ・発表者 ①日高地区スポーツクラブ 瀧口和成 事務局長
- ②泉沢向陽台スポーツクラブ

佐々木眞壽美クラブマネージャー

③四里塚スポーツクラブ 久保田 智 事務局長

(3) 事務連絡「各クラブの中間報告から」

中沢昭洋クラブ育成アドバイザー



第2弾【後期】現地調査・ヒアリングルポ

◆事業概要とねらい◆

本道15育成指定クラブの後期（9～11月）現地調査・ヒアリングが、渡邊・中沢両クラブ育成アドバイザーの各クラブ訪問によって実施されました。現地調査・ヒアリングの内容は、前期（5～7月）と同じく、I. 平成18年度の事業実施状況と評価について、①各委員会の開催と状況、②スポーツ教室とイベントの開催と状況、③広報活動、④視察研修や講習会など、9項目にわたって実施状況をヒアリング、II. 重点事項の取り組みと評価については、①理念や目的の確立、②財源の在り方、③事務局体制、④設立総会に向けて、⑤課題の把握など、クラブ設立に向けて9項目のキーポイントを中心に、ヒアリングを実施しました。

現地調査・ヒアリングのねらいは、各クラブの課題を浮き彫りにして、共に知恵を出し合う場であります。育成指定委託期間の2年間の中で、じっくりと粘り強く、課題解決に向けての取り組みが期待されます。



【四重塙SC・タガラグビー】

◆落部スポーツクラブ【八雲町】“順風満帆”足取り確か

～夢を追い続ける知野修司クラブ事務局長～



【落部SC・川遊び】

「落部スポーツクラブ」（高村貞司会長）は、育成指定2年目になり、来週2月末の設立総会を目指して、その足取りの確かさが伺うことができます。

10月の新聞報道（道新）においても、「クラブが順調に会員を増やし、スポーツを楽しむ機会が済っている過疎地域の人たちの健康増進、クラブが有効な手段となりそうだ」と高い評価を受けております。

クラブのキーパーソンである知野修司事務局長は、「クラブ会員全員と地域の人たちが参加し、昔やっていた地域の大運動会のような行事をいつかはやりたい」と大きな夢を膨らませています。

いつも感じるのですが、会長や事務局長をはじめとして、クラブに夢がないと発展はないと思っており、その点夢を追い続ける知野修司事務局長に感心させられます。

落部地区は他町村同様に、人口減、少子高齢化が進み、スポーツに対する熱は沈滞傾向にあったのが、現在は会員も180人にもなり、「お金を払ってでも、スポーツを楽しもう」という意識が浸透、いわゆる「受益者負担の原則」がしっかりと根付きつつあるようです。

1. 現地調査＜クラブ活動視察＞「子どもチャレンジスポーツ教室」 10月28日 八雲町温水プール

10月28日は土曜日とあって、小中学生対象の「子どもチャレンジスポーツ教室」が、八雲町温水プールで実施されていた。参加した43人の子ども達の喜びの声がプールいっぱいに響けていたのが印象的でした。

またこの日は、平成20年指定予定の豊浦町体育指導委員や教育委員会の皆さん10人も視察に来ておりました。

2. ヒアリング 10月28日 八雲町総合体育館（町教委体育課）

町総合体育館会議室において、知野修司事務局長、小山田博之子どもスポーツ活動代表、足立直人体育課長補佐、吉田一久体育係長の4人が対応、ヒアリング項目に沿って話しが進められました。指導者の確保についても、地元の各スポーツ経験者25人の登録などにより組織化され、町教委は黒子に徹して支え、バランスの取れた連携が図られていることも強調されました。



【落部SC・ジンギスカン囲んで】



その他の現地調査・ヒアリング

＜スナップ写真＞



【9月3日 深川スポーツ健康C】



【10月1日 びふかSC】



【10月11日 標津SC】

今後の事業と報告

◆第2回総合型地域スポーツクラブ育成委員会

2月中旬（予定） 道立総合体育センター

※ 育成委員（7名）の会議です。

◆事業計画実施報告【1年間のもの】

締切日 道体協へ 平成19年3月2日（金）

日体協へ 平成19年3月9日（金）

※ 委託金は残さず執行して下さい。

編集後記

◆12月師走を迎えると毎年「情報ステーション」「年賀状」の二つに頭が悩まされる。今年度事業の講演も、講師の皆さんのご理解とご協力を得て無事終えることができました。その中で、6月、大沼義彦先生の「今こそスポーツを通して地域の力をクローズアップさせる」、11月、黒須充先生の「クラブづくりは社会を変える試みである」などは、納得のいく一言がありました。